

拒絶査定



特許出願の番号 特願2001-199703  
起案日 平成15年 7月 8日  
特許庁審査官 井口 猶二 9119 2X00  
発明の名称 カラーフィルタ基板及び液晶装置、並びにこれら  
の製造方法  
特許出願人 セイコーエプソン株式会社  
代理人 上柳 雅誉 (外 1名)

この出願については、平成15年 2月 3日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

5006/14/01  
15

なお、意見書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

備考

平成15年4月14日付け手続補正書でした明細書又は図面についての補正は、平成15年7月8日付けで補正却下の決定がされた。

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成15年 7月 9日 経済産業事務官 高安 広明

補正の却下の決定



特許出願の番号	特願2001-199703
起案日	平成15年 7月 8日
特許庁審査官	井口 猶二 9119 2X00
発明の名称	カラーフィルタ基板及び液晶装置、並びにこれらの製造方法
特許出願人	セイコーエプソン株式会社
代理人	上柳 雅誉 (外 1名)

結 論

平成15年 4月14日付け手続補正書でした明細書又は図面についての補正は、次の理由によって却下する。

理 由

各引用文献1-6には、本願発明と同様の $Ta_2O_5$ 、 $ZrO_2$ 及び $TiO_2$ のうち少なくとも1つを主成分として含む絶縁膜が記載されているので、 $SiO_2$ より耐アルカリ性が強いことは格別の差異とは認められない。

$Ta_2O_5$ の屈折率は特開平6-208002号公報の段落0016に、 $ZrO_2$ 屈折率は特開平2-22622号公報の右下欄、特開平7-318703号公報段落0003に記載されているように、屈折率が1.7以上1.95以下であることは周知である。したがって、引用文献1-6に記載の発明における絶縁層を本願発明の絶縁層における屈折率とすることに格別の困難性は認められない。

よって、請求項1-12に係る発明は引用文献1-6に記載の発明及び上記周知技術以上の格別のものとは認められない。

したがって、この補正は、特許法第17条の2第3項第2号の補正後における請求項に記載されている事項により構成される発明が特許出願の際独立して特許を受けることができるものでなく、特許法第17条の2第4項において準用する同法第126条第3項の規定に違反するものであるから、同法第53条第1項の規定により、上記結論の通り決定する。

---

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成15年 7月 9日 経済産業事務官 高安 広明